

改訂モデル・コアカリキュラム実務実習に向けた概略評価の先行導入：慶應義塾大学における概略評価の有用性と効果的实施・運用に向けた検討
○鈴木 小夜¹、池淵 由香²、清宮 啓介²、地引 綾¹、横山 雄太¹、河添 仁¹、岩田 紘樹^{1,3}、小林 典子^{1,3}、藤本 和子¹、早川 智久^{1,2}、津田 壮一郎²、別府 紀子²、山浦 克典^{1,3}、望月 眞弓^{1,2}、中村 智徳¹（¹慶應大薬、²慶應大病院薬、³慶應大薬局）

【目的】慶應義塾大学薬学部（本学）では、2016年度よりルーブリック評価トライアルを実施し日本薬学会第137、138年会にて報告してきた。2018年度は実務実習にルーブリック形式の概略評価を先行導入したので、実務実習における概略評価の有用性と実施状況の評価、及びこれまでのトライアルの成果を検証する。

【方法】2018年度Ⅰ期実務実習において、本学5年次生160名（薬局78名、病院82名）を対象に、日本薬剤師会及び日本病院薬剤師会作成の概略評価を用い、同意が得られた施設で指導者による評価の先行導入を実施した。実習生160名も同じものを用いて全員が自己評価を行った。本研究では、実習終了後に評価者及び実習生両者へのアンケート調査実施が可能であった慶應義塾大学病院の実習生を対象とし、実習生に対するアンケート調査で得られた「学生が感じる自身の成長（成長実感度）」を実習に対する満足度とし、概略評価に対する学生や指導薬剤師の理解度、指導薬剤師からの概略評価の説明やフィードバックの有無を説明変数とした顧客満足度（CS）分析を行い、概略評価の有用性を学生の視点から評価を行った。

【結果・考察】アンケートに回答したⅠ期慶應病院実習生18名のCS分析において「指導薬剤師とのコミュニケーション」、「指導薬剤師からの説明・目標の明示」及び「振り返り・フィードバック」が重要維持項目（実習生が重視し、かつ満足度の高い項目）であった一方、「指導薬剤師の概略評価に対する理解」が要改善項目（実習生が重視しているが満足度の低い項目）として抽出された。2年間のルーブリック評価トライアルは一定の効果をもたらした一方、実習生の視点からは要改善項目も抽出された。先行導入の実施・運用状況について評価者及び実習生双方のアンケート調査結果を詳細に分析し、状況の把握と改善案を検討する。